

②国際協力・交流等に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信（セ01）	文化遺産国際協力センター	43
東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力（セ02）	文化遺産国際協力センター	44
西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（セ03）	文化遺産国際協力センター	45
在外日本古美術品保存修復協力事業（セ04）	文化遺産国際協力センター	47
ユーラシア壁画の調査研究と保存修復（セ06）	文化遺産国際協力センター	48

文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信 (②セ01-15-5/5)

目 的

文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国における文化財保存・修復事業を推進する。

成 果

1. 国際会議出席：文化財保護の国際動向を把握し、国内外の関連機関との連携を深めるために、以下の会合に参加した。世界遺産委員会（ボン、2015（平成27）年6月28日～7月8日）、ICOMOS年次総会（福岡、2015（平成27）年10月26日～29日）、第29回 ICCROM理事会および総会（ローマ、2015（平成27）年11月15日～21日）
2. 文化遺産（動産文化財）保護についての調査・研究：諸外国の中でも日本を含む世界中の文化財を保有し、独自の方法で保護しているアメリカの現状を把握するため、国内外の関係者から聞き取り調査を行うとともに、下記の日程で調査を実施した。2015（平成27）年12月14日～18日 ゲッティ保存修復研究所、ゲッティ美術館
3. 対訳法令集シリーズの刊行：本年度はメキシコについて、文化財保護関連の基本的法令の条文を和訳し、対訳法令集シリーズとして1冊刊行した。
4. 選定保存技術の調査：日本の選定保存技術の伝統やその技術を広く国内外に発信していくために、銚金具・建具・金襴・杼（京都）、宇陀紙・鬼瓦（奈良）、苧麻糸手績・琉球藍（沖縄）、粗苧（大分）、昭和村からむし（福島）、漆掻き（岩手）、漆掻き用具製作（青森）、邦楽器原糸（滋賀）、玉鋼（島根）、手漉和紙用具（静岡）など15種類の技術について調査を実施し、カレンダーおよび報告書を刊行した。東京文化財研究所ロビー展示（2016（平成28）年3月～9月）においても写真パネルによる成果公開を行った。

発表

- ・二神葉子「世界遺産委員会における諸課題とその解決、及び世界遺産条約の文化財保護への活用に向けての試論」企画情報部研究会 15.4.21

刊行物

- ・カレンダー2016「文化財を守る日本の伝統技術」（壁掛版・卓上版）東京文化財研究所 15.11
- ・『各国の文化財保護法令シリーズ[20]メキシコ』東京文化財研究所 16.3
- ・『世界遺産用語集』東京文化財研究所 16.3
- ・『選定保存技術に関する調査報告書1和鋼』16.3

研究組織

- 江村知子、川野邊渉、山内和也、友田正彦、加藤雅人、境野飛鳥、草薙綾、長谷川泉、橋本広美、半戸文（以上、文化遺産国際協力センター）、二神葉子（企画情報部）



ICCROM 総会の審議の様子（ローマ）



東京文化財研究所ロビー展示

東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 (②セ02-15-5/5)

目 的

東南アジア諸国とその周辺地域における保存修復事業への協力及びこれに関する調査研究の実施を通じて、文化財の保存・修復に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

成 果

1. 研究会「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」の開催 (2015 (平成27) 年11月13日)
2. カンボジア・タネイ遺跡保存整備計画策定支援等
 - ア) アプサラ機構職員と同遺跡の三次元写真測量を実施 (2015 (平成27) 年5月26日～6月2日)
 - イ) アンコール遺跡保存国際調整委員会諸会合に参加 (2015 (平成27) 年6月4日、12月3・4日)
 - ウ) 同遺跡内設置の気象観測装置のメンテナンス等を実施 (2015 (平成27) 年12月4日)
 - エ) 同遺跡のリスクマップ作成のため、同機構担当者と危険個所評価手法等に関する調査及びワークショップを実施 (2016 (平成28) 年2月14日～15日)
3. ブータンの伝統的版築建造物保存協力
内務文化省文化局遺産保存課職員との情報共有と意見交換 (2015 (平成27) 年12月21日～23日)
4. ミャンマーの伝統的漆工技術保存のための研修ワークショップの開催 (2016 (平成28) 年1月14日～15日)
5. インドネシア・パダン歴史地区復興に関する住民参加型セミナー開催
文化教育省、州、市政府等と共催したほか、市長らと協議 (2015 (平成27) 年8月24日～27日)

発表

- ・Katsura SATO “3D Documentation at Ta Nei temple” アンコール遺跡保存国際調整委員会(ICC)第24回技術会議 アプサラ機構本部 15.6.4
- ・佐藤桂ほか「ブータン王国における民家等の伝統的建造物保存に関する研究 その5 版築職人への聞き取り調査」日本建築学会大会学術講演会 東海大学 15.9.4
- ・マハラジャアキララルほか「インドネシア・パダン旧市街地における地震前後の環境移行に関する考察 2009年西スマトラ地震後のパダンにおける歴史的町並み復興 その8」日本建築学会大会学術講演会 東海大学 15.9.5
- ・竹内泰ほか「インドネシア・パダン旧市街地における歴史的町並み復興に関する課題 2009年西スマトラ地震後のパダンにおける歴史的町並み復興 その9」日本建築学会大会学術講演会 東海大学 15.9.5

刊行物

- ・『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成27年度成果報告書』東京文化財研究所 16.3
- ・『「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」研究会報告書』東京文化財研究所 16.3
- ・“Riset Integrasi Berlandaskan Rekonstruksi Warisan Budaya Kawasan Pdang Lama di Padang, Sumatera Barat” NRICPT, 15.8
- ・“Laporan “Workshop mengenai Rehabilitasi Kawasan Padang Lama di Provinsi Sumatera Barat”” NRICPT, 16.3

研究組織

○川野邊渉、友田正彦、山下好彦、佐藤桂、山田大樹、増渕麻里耶、北川瑞季、近藤洋 (以上、文化遺産国際協力センター)

西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業 (②セ03-15-5/5)

目 的

西アジア諸国、とくに内戦・紛争によって危機にさらされているアフガニスタン及びイラクの文化遺産の調査研究や文化遺産の保護・保存修復事業を通して、技術移転及び人材育成を図り、自国民の手による文化財保護事業の確立の支援を目指す。また、あわせて周辺地域（特に中央アジア、インド、コーカサス）の文化遺産の調査研究・保護への協力を実施する。

成 果

1. アフガニスタン

ア) 『バーミヤーン遺跡保存事業第11次ミッション概報』(英)

刊行：2015（平成27）年12月

イ) シンポジウム「紛争と文化遺産—紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興—」を開催：2016（平成28）年1月24日

ウ) 「バーミヤーン遺跡の大仏再建に関する研究会」開催（日本イコモス国内委員会と共催）：2015（平成27）年7月22日

2. 西アジア周辺諸国における文化遺産の調査研究・保護への協力等

ア) キルギス：ユネスコ文化遺産保存信託基金事業による、キルギス共和国科学アカデミーとの文化遺産保護の分野における協力および人材育成ワークショップの開催（研修生8名の参加）：2015（平成27）年10月

『キルギス共和国チュウ川流域の文化遺産の保護と研究 アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡—2011～2014年度—』刊行：2016（平成28）年3月

イ) イラン：『イランにおける文化遺産視察および先方関係機関との意見交換に関する報告書』刊行（日/英）：2016（平成27）年7月/9月

中央アジア歴史都市会議における論文発表：2015（平成27）年9月

イラン文化遺産・工芸・観光庁の次官との意見交換：2015（平成27）年10月

ウ) カザフスタン：シルクロード世界遺産登録調整会議への出席：2015（平成27）年11月

エ) エジプト：JICA事業「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト」への協力



「紛争と文化遺産」シンポジウムの様子

論文

- ・イランおよび中央アジアにおける歴史都市景観保護のための基礎的研究（1）—歴史都市ヤズドの景観保護政策と課題—（山田大樹）2015 年度日本建築学会 大会学術講演梗概集F-1 日本建築学会 pp.405-406 15.9

報告

- ・バーミヤーン遺跡の破壊、そして現在（山内和也）『黄金のアフガニスタン』産経新聞社 pp.187-191 16.1
- ・『紛争と文化遺産』シンポジウム（山内和也）『INFORMATION』10期1号 JAPAN ICOMOS pp.39-40 16.3
- ・シルクロード キルギスのアク・ベシム遺跡 唐代城壁の一部出土（山内和也）『読売新聞』 15.12.30

②国際協力・交流等 Area11

- ・シンポジウム「紛争と文化遺産」「人類の宝」保護への国際協力を（山内和也）『産経新聞』 16.2.4
- ・九州国立博物館特別展「黄金のアフガニスタン」悠久の輝き再び 寛容の地に開いた花（山内和也）『西日本新聞』 16.1.10
- ・戦乱の地 守られた遺産『朝日新聞』 16.1.19
- ・戦乱アフガンで受難……収集、返還へ 流出文化財日本が救う『読売新聞』 15.8.15
- ・イスラム教の国 保存に課題 The Asahi Shimbun Globe 15.9

発表

- ・イランの建築と文化（山内和也、山田大樹） 2015年度トルコ文化研究センター研究会 武庫川女子大学 15.6.4
- ・キルギス共和国における博物館をめぐる課題（山内和也） 第21回東アジア・中央アジア分科会 15.7.13
- ・イランおよび中央アジアにおける歴史都市景観保護のための基礎的研究(1) —歴史都市ヤズドの景観保護政策と課題—（山田大樹） 建築学会 東海大学 15.9.4
- ・「Preservation as the Sustainable Historic District」（Hiroki Yamada） The 8th International Policy Forum on Urban Growth and Conservation in Euro-Asian Corridor Tehran-Hamadan Conference 2015 15.9.30

刊行物

- ・『Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2013: 11th mission』東京文化財研究所 15.12
- ・『キルギス共和国チュー川流域の文化遺産の保護と研究 アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡—2011～2014年度—』東京文化財研究所 16.3
- ・『紛争と文化遺産：紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興』東京文化財研究所 16.3
- ・『バーミヤーン東大仏「足」状工作物構築と再建に関する資料集』東京文化財研究所 15.7
- ・『イラン文化遺産の現地調査及び関係機関との文化遺産保護に関する意見交換の報告書』東京文化財研究所 15.8
- ・『Research Report on the Safeguarding of Iranian Cultural Heritage』東京文化財研究所 15.9

研究組織

- 川野邊渉、山内和也、久米正吾、山田大樹、山藤正敏、近藤洋（以上、文化遺産国際協力センター）、間倉裕生、古川尚彬、谷口陽子、藤澤明（以上、客員研究員）、森本晋（奈良文化財研究所）

在外日本古美術品保存修復協力事業 (②セ04-15-5/5)

目 的

日本の文化財は欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、これらの保存修復の専門家は海外にほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで、海外で所蔵されている掛軸などの紙本絹本文化財および漆工芸品のうち、本格的な修復が必要な作品を一旦日本に運び修復して返還することを目的としている。また、研修、共同研究等を通して日本の文化財修復に対する理解の深化、修復技術の移転を行う。

成 果

1. 作品修復 修復中作品5点

ア) クラクフ国立博物館(ポーランド)所蔵作品3点(宮川長春作「遊女と禿図」1幅、中林竹洞作「瀑布溪流図」1幅、狩野中信作「月下秋景図」1幅)

イ) ナショナルギャラリーオブビクトリア(オーストラリア)所蔵作品2点(「親鸞聖人絵伝」4幅、佐々木泉玄作「般若図」1幅)

2. 海外調査 3件

ア) インディアナポリス美術館(アメリカ)、絵画調査、2016(平成28)年2月8日～12日。

イ) 英国ロイヤルコレクション(イギリス)、漆工芸品調査、2016(平成28)年2月15日～19日。

ウ) 文化省等(アルゼンチン)、協議および概要調査、2016(平成28)年2月27日～3月4日。

3. 研修 5件

ア) Workshops on Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk、場所 ベルリン国立博物館 アジア美術館(ベルリン・ドイツ):(Workshop I) "Basic-Japanese paper and silk cultural properties"、2015(平成27)年7月8～10日、参加者25名。他1件。

イ) Workshops on the Conservation and Restoration of Urushi (Japanese Lacquer) ware、場所 ケルン市博物館東洋美術館(ケルン・ドイツ):(Workshop I) 2015(平成27)年11月13～14日、参加者6名。他2件。

4. その他、協力・共同研究等

共同研究: ドレスデン国立美術館陶磁器資料館(ドイツ)所蔵「染付蒔絵鳥籠装飾広口大瓶」。他1件。

発表

・ Masato KATO, Takayuki KIMISHIMA, "Karibari: The Japanese Drying Technique" Adapt & Evolve 2015: East Asian Materials and Techniques in Western Conservation, Brunei Gallery, SOAS, University of London 15.4.8-10

・ 楠京子、山田祐子、加藤雅人、君嶋隆幸、井上さやか「キンベル美術館所蔵『二十五菩薩来迎図』修復事例報告」文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28

・ 山田祐子、加藤雅人、楠京子「紙本、絹本の修復に使用される補彩絵具の変色」文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28 他2件

刊行物

・ 『在外日本古美術品保存修復協力事業 二十五菩薩来迎図』東京文化財研究所 15.3 他3件

研究組織

○川野邊渉、加藤雅人、江村知子、山下好彦、楠京子、山田祐子、小田桃子、山之上理加、嶋原由美、後藤里架(以上、文化遺産国際協力センター)、早川典子(保存修復科学センター)、小林達朗(企画情報部)、鈴木絢香(研究支援推進部)、杉山恵助、大河原典子(以上、客員研究員)

ユーラシア壁画の調査研究と保存修復 (②セ06-15-3/3)

目 的

ユーラシア世界の壁画の技法材料に関する調査研究を行い、適切な保護、保存修復の手法を検討するとともに、壁画の造形表現と歴史的・文化的背景についても調査研究を行う。さらに、他の分野の専門家と学際的に協力、連携し、壁画という文化遺産を総合的に調査研究する。地域的には、ユーラシア地域（含む北アフリカ）を対象とし、その中でもアジア地域の壁画を主な対象とする。また、時代幅については、6～8世紀を基軸におき、紀元前後から13世紀の壁画を主な対象とする。

成 果

1. 敦煌莫高窟壁画調査研究

- ア) 莫高窟第285窟において調査を行い、昨年度に引き続き、洞窟内で発生する風（空気流）によって飛ぶ微小な砂の挙動と壁画の劣化との関係についてデータを取得し、考察を行った（2015（平成27）年8月）。
- イ) 環境研究に関する成果を日本建築学会（2件）、国際学会（1件）、材質分析研究に関する成果を日本文化財科学会、保存修復学会（各1件）、保存に関する成果を国際学会（1件）、データベースに関する成果を国際学会（1件）で発表した。
- ウ) 敦煌研究院保護研究所の研究員1名を招聘し、文化財の生物劣化とその対策に関する講義と関西地区の文化遺産等についての視察を通して研修を行った（2015（平成27）年11月10日～28日）。
- エ) 5カ年計画の最終年にあたり、平成17年度に始まり10年に及んだ莫高窟第285窟の調査研究を総括するため、これまでの成果を日中2カ国語の報告書としてまとめ、併せて敦煌研究院において総括の成果会を報告開催した（2016（平成28）年3月12日）。

2. 陝西墳墓壁画調査

陝西省考古研究院と連携し、現存例は少ないものの、技法・絵画表現において大きな変革期となる隋・初唐の墳墓壁画について調査を行い、第285窟の次の研究課題について考察した（2015（平成27）年10月21日）。

3. フルブック遺跡出土壁画断片保存修復事業のまとめ

タジキスタン共和国フルブック遺跡から出土した壁画断片の保存修復・展示・一般公開という一連の保存修復事業を日本語報告書としてまとめ、その成果を公表した。

論文

- ・岡田健、渡辺真樹子、高林弘実、蘇伯民、崔強「敦煌莫高窟第285窟東壁に描かれた如来像に用いられた彩色材料と技法」『保存科学』55 pp.139-149 163

発表

- ・三箇山茜、鉾井修一、小椋大輔、岡田健、蘇伯民「敦煌莫高窟第285窟の壁画劣化に及ぼす砂塵の影響」平成27年度日本建築学会近畿支部研究発表会 大阪工業技術専門学校 15.6.27
- ・岡田健、渡辺真樹子、高林弘実、蘇伯民、崔強「敦煌莫高窟第285窟東壁に描かれた如来像に用いられた彩色材料と技法」文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- ・中田愛乃、高林弘実、岡田健、蘇伯民、崔強「敦煌莫高窟第285窟の壁画制作における構図を決める当たり線の役割に関する研究」日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.7.12
- ・三箇山茜、鉾井修一、小椋大輔、岡田健、蘇伯民「敦煌莫高窟第285窟の壁画の劣化と外気流入との関係」日本建築学会大会（関東）学術講演会 東海大学 15.9.6

- Mikayama Akane, Hokoi Shuichi, Ogura Daisuke, Okada Ken, Su Bomin, Effects of drifting sand particles on deterioration of mural paintings on the east wall of cave 285 in Mogao caves, Dunhuang. 6th International Building Physics Conference, IBPC 2015, Turin, Italy, 15.6.15
- 岡田健、津村宏臣「知識科学としての敦煌データベース」2015 Dunhuang Forum: International Conference on Digital Library and Cultural Relics Preservation and Use in the Big Data Environment 敦煌 15.8.25
- 岡田健「石窟壁画研究ノート—失われた壁画の記憶」第2回曲江壁画論壇—壁画芸術史研究及び保護修復技術研究を中心として— 西安 15.10.23
- 小川絢子、藤澤明、成田朱美、増田久美、島津美子、山内和也「タジキスタン国立古代博物館におけるフルブック遺跡出土壁画断片の保存修復—壁画断片群のマウント処置と展示—」文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28

刊行物

- 『敦煌莫高窟第285窟研究—壁画材料劣化メカニズムの解明』東京文化財研究所/敦煌研究院 16.3
- 『敦煌莫高窟第285窟壁画材料劣化機理、壁画藝術と保護問題的研究』（中国語版）東京文化財研究所/敦煌研究院 16.3
- 『フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復』東京文化財研究所文化遺産国際協力センター 16.2

研究組織

- 岡田健（保存修復科学センター）、○山内和也（文化遺産国際協力センター）、早川泰弘、犬塚将英、吉田直人、森井順之（以上、保存修復科学センター）、皿井舞（企画情報部）、山藤正敏（文化遺産国際協力センター）、高林弘実、渡辺真樹子、津村宏臣、藤澤明（以上、客員研究員）